

研修医 1 年目の近況報告 (27期生)

近況、といっても沖縄には現れますが…

竜 彰
(倉敷中央病院 研修医)

「息子が入院しているあいだ、すごく可愛がってくれてありがとうございました。そして愚痴ばかり言って本当にごめんなさい。どんな話でも先生が一途に聞いてくれて、意見してくれたのがいちばん嬉しかったです。」

ちょうど医者として働きはじめて2ヵ月目、初めて頂いたお手紙にはこう記されていました。小児科ローテーションで受け持った7ヵ月の赤ちゃんのお母さんから頂いたものです。

4月に働きはじめてからというもの、職場を行き来するだけの殺風景な日常と、自分の非力さを心苦しく思う日々が続きました。そんな時に頂いた手紙。

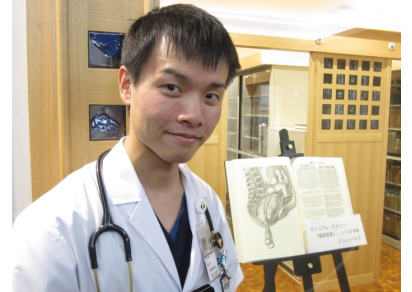
「お母さん、なにか気になることはありませんか。聞かせてください。なんにもないですか？いや、ほんとに？」

患者さんの入院中、とにかくカルテに毎日一度は記事を書く。しかし、何ともかんともないとなると、「変化なし、安定。」というたった一行の短い記事しか書けない。それでは(根が文系脳で、物を書くことを良しとする性分上、)つまらなさすぎるし、たかが研修医、まともな成果を上げられるとすれば問診・記録っくらいのはずが、それすらまともにも形に出来ないともなると、上級医に申し訳が立たない。——そんな思考回路がはたらいて、とにかく患者さんには根掘り葉掘りいろんなことを聞き出そうとしました。「文系脳」が幸いしてか、書類を作ったり、紹介状の文面を考えたり等々の事務仕事は早いほうで、日中の時間の多くは患者さんのお部屋にお邪魔して、雑談がてら色んな話をします。要はおしゃべりです。ときには煙たがられたり、疲れたと言われたりすることもあります。話を合わせられるよう努力はしているつもりで、共通の話題があると患者さんのほうから心を開いて下さることもあります。最近旅行した旅先の話、好きな料理、コーヒーの話…。脱線に脱線を重ねて話があらぬ方向に向かうこともあります。時として治療を進める上で大切な情報を雑談の中で耳にしたりすることもあります。今のところ上級医の先生がたの反応は様々で、「良く聞いてくれたし自分の言葉で書いてくれるのが良い。」と誉められることもあれば、「お前の記事は長すぎるしせっかく仕事が早いなら他に時間を充てなさい。」とお叱りを受けることもあります。…でも研修医が出来る「主体的な仕事」といえばこれくらいのことではかないだろうし、手技、知識云々に関してはまだまだ学ばせていただいている身。2ヵ月も経たない研修医なんてほとんどの医療行為に関しては足手纏いという感が個人的には強いと思います。そんななかでも、患者さんの話を聞いて差し上げることはすべての医者に与えられた「舞台」であり、患者さんとの信頼関係を築くための貴重な場だと、手紙を頂いてから半年以上が経ちますが、そう思いながら日々を

過ごしています。

今年の3月に沖縄をいったん離れ、岡山県の倉敷中央病院で研修しています。中四国地区では最大規模(1200床)を誇る病院で、救急外来のブースは9つ。院内に食堂が3軒、カフェが2軒入っています。また、16-18世紀に欧州(主にドイツ)で刊行された貴重な解剖図表を院内図書館の一角に収蔵してあったり(写真)、昭和初期からのレトロな照明が廊下を照らしたり…と、ハード面でもソフト面でも素敵な環境のなか過ごしてはいるものの、大学時代からの落ち着きのなさからか、2日以上のお休みがあれば沖縄に飛んで、学生時代とまったく同じ要領で部活に出たり、友人や心ある後輩たちと日々の出来事を語り合ったりしています。変わったことと言えば、飛行機の普通運賃とJRの新幹線特急券に手を出すようになった(なってしまった)くらいでしょうか。卒業してから分かったことですが、沖縄出身の皆さんや沖縄で仕事をすることがある皆さんは、先輩も後輩も概して心がきれいな人が多いのではないかと最近思います。それこそ先に述べたような、人の話により共感できるという意味では人間的に接していて心地よさを感じます。コバルトブルーの海とあわせて沖縄の輝く魅力のひとつではないかと。

1泊2日で沖縄に飛ぶだけの気力が無くなれば、人生のなかでもう二幕、三幕は沖縄で過ごす場面があってもいいのかなあ、と最近おぼろげながらも考える今日この頃です。



大阪の一市中病院より

大森 学
(箕面市立病院 研修医)

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、はじめまして医学科27期の大森学と申します。同窓会の諸先輩方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。我々27期は今年3月に琉球大学を卒業し、今年度から初期研修医として臨床研修が始まりました。この度は烏滸がましくも1年目を代表して新米医師の近況を報告させていただきます。

私は初期研修に出身地である大阪の大学病院を選択いたしました。2年間のローテーションのうち1年目は市中病院、2年目は大学病院での研修です。現在は大阪府箕面市の病院で研修中です。大阪府の北部エリアは自然が多く、病棟から春には桜、秋には紅葉がきれいに望めます。また、近隣には畑も多く稲刈り後の野焼きで喘息発作の患者が増える地域でもあります。そんな環境での研修生活も8か月が過ぎようとしています。右も左も分からなかった四月か